

平家物語の主語と中国語の主語

文 楚 雄

I はじめに

主語については日本語も中国語もややこしい問題の一つである。日本語では主語、主題、主格のような用語があり、それぞれを指す範囲は説によっては違っている。たとえば、「が」でしめされるものを主語とし、「は」で示されるものを主題とする説¹⁾もあれば、「は」でしめされるものも「が」でしめされるものも主語とする説²⁾もある。さらに主語という用語を無くすべきという説³⁾すらある。また、格助詞や係助詞、副助詞など助詞の使い方も複雑である。中国語の場合は日本語のような問題がないが、主語をしめす主格の助詞がなく、述語の語尾の変化もないので、何によって主語を決めるのが問題となっている。主として二つの意見に分かれている。一つは文の語順や構造を重視する説で、もう一つは文の意味を重視する説である。それぞれの主語の判断基準が違っているので、同じ文でも主語として見なしたり、見なさなかったりする。例えば：

- | | | | |
|-----|-------------------|-------------|-------------------|
| | <u>这种事情</u> | <u>准</u> | <u>肯干。</u> |
| (甲) | 主 語 | 主 語 | 述 語 |
| (乙) | 目的語 | 主 語 | 述 語 ⁴⁾ |
| | (このようなことは誰がやりたい。) | | |
| | <u>他</u> | <u>什么事情</u> | <u>都做。</u> |
| (甲) | 主 語 | 主 語 | 述 語 |
| (乙) | 主 語 | 目的語 | 述 語 |
| | (かれはどんなことでもよくやる。) | | |

このように日本語も中国語も何が主語であるか議論するところである。本稿で言う主語は日本語の場合は「は」でしめされるものも「が」でしめされるものも主語とし、中国語の場合は動詞の前にあり、かつ動作の発生者であるものを主語とする。

本稿ではこのような主語の基準のもとで平家物語に於ける主語と中国語の主語について比較・考察することにする。具体的には中国語の主語の構造、平家物語の主語の構造、平家物語の主語の省略及びその中国語訳の対応などの問題について各角度から考察し、さらに中国語の語り物「平話」³¹の主語及び平家物語英訳の主語の問題についても触れてみたいと思う。これらの比較・考察を通じて平家物語の主語と中国語の主語の相違点などを見つけていることを試みたい。

なお、本稿で使う平家物語のテキストは『平家物語』(上) 福田見氏他校注、三弥井書店一九九三年のものとする。

Ⅱ 主語の構造

1 中国語の主語

動詞や形容詞などの述語の語尾の変化がなく、格をしめす格助詞などもない中国語では、主語を考えるとときには語順や文の意味にたよらなければならないことになる。そこで主語の判断については語順によるべき意見と意味によるべき意見とが対立して、同じ文でも主語として見たり、目的語として見たりする。つまり、中国語の主語は単なる文構造上のものなのか、それとも文法・意味上のものなのか、さらにロジック上のものなのかについてとらえ方が大きく違っている。これらのとらえ方は大きく分けて下記のようなものがある。

(1) 主語が動作の主体である。

このとらえ方をするときには動詞が述語になる文に於いては動作の発生者は即ち主語である。その動作の発生者は述語としての動詞の前であろう後であろう、また目的語の前であろう目的語の後であろう、動作の発生者であれば主語である。このとらえ方をする時の特徴としては文の構造を重視せず、文が表わしている意味や動詞との関わりを重視するということである。この説の代表的な学者は王力氏、呂淑湘氏⁶⁾がいる。このようなとらえ方をすれば、動詞が述語になる文においては、次のような七つのパターンに分けられる。

(a) 主・述・目構造 (S・V・O 構造)

我 已經知道 這件事了。⁷⁾

(b) 主・目・述構造 (S・O・V 構造)

我 這件事 已經知道了。

(c) 目・主・述構造 (O・S・V 構造)

这件事 我 已经知道了。

(d) 主・述構造 (S・V 構造)

昨晚 客人 走了。

(e) 述・主構造 (V・S 構造)

昨晚 走了 一帮客人。

(f) 述・目構造 (V・O 構造)

看过 这本书 吗?

(g) 目・述構造 (O・V 構造)

这本书 看过 吗?

このようなとらえ方をする時には主語は動詞との関わりあいでは決められ、主語の位置にはあまりこだわらないのである。従って主語は述語の後に来る場合もあれば、主語のない文もある。次に主語が述語の後に来る場合の用例をさらに幾つかを挙げておく。

死了一条鱼。(V・S 構造、一匹の魚が死んだ。)

下大雨了。(V・S 構造、大雨が降ってきた。)

一根冰棍 吃 两个人。(O・V・S 構造、二人で一本のアイスクャンディーを食べる。)

一张床 睡 两个人。(O・V・S 構造、二人で一つのベッドで寝る。)

(2) 述語の前にあるのは主語である。

このとらえ方をする時には述語が動詞で構成する文においては、動詞の前に来るものは目的語であれ、場所や時間を表わす連用修飾語であれ、述語の前に来るなら、主語として扱う。逆に動詞の後に置くものについては動詞の主体であっても目的語として見る。このとらえ方の特徴としては、主語はあくまで文の語順や構造によって決めるものであって、動詞との関わりあいや文が表している意味で決めるものではないということである。代表的な学者としては胡裕樹氏⁸⁾などがある。このようなとらえ方をする時には述語が動詞で構成する文においては、上述 (1) の (a) ~ (g) の構造パターンは次のような構造パターンになる。

(a) S・V・O 構造 → (a') S・V・O 構造

我 已经知道 这件事了。 我 已经知道 这件事了。

(b) S・O・V 構造 → (b') S・S・V 構造

我 这件事 已经知道了。 我 这件事 已经知道了。

(c) O・S・V構造 → (c') S・S・V構造

这件事 我 已经知道了。 这件事 我 已经知道了。

(d) S・V構造 → (d') S・S・V構造

昨晚客人 走了。 昨晚 客人 走了。

(e) V・S構造 → (e') S・V・O構造

昨晚走了 一帮客人。 昨晚 走了 一帮客人。

(f) V・O構造 → (f') V・O構造

看过 这本书 吗? 看过 这本书 吗?

(g) O・V構造 → (g') S・V構造

这本书 看过 吗? 这本书 看过 吗?

(3) 主語は述語の陳述の対象である。

このとらえ方をする時には主語は文の意味或いは文の構造のどちらかに偏るのではなく、構造と意味を総合して判断すべきだと主張する。従って文の種類によっては時には構造を重視し、時には文の意味を重視し、個々の文の実情に応じて主語を判断する。張静氏⁹⁾がそのとらえ方の代表の一人である。

(a) 文の語順・構造による主語の判断

船, 我们 准备好了。(S・V構造)

朱大海, 我 认识 他。(S・V構造)

上述の文の主語「船」、「朱大海」は動詞との関わりあいから見れば目的語になるのである。この二文は次のように言い換えることができる。

船, 我们 准备好了。→ 我们 准备好了 船。

朱大海, 我 认识 他。→ 我 认识 朱大海。

(b) 文の意味や構造を総合して主語を判断する。

院子中间摆着 一张桌子。(V・O構造)

昨晚走了 两个客人。(V・O構造)

第二天早上下 暴雨了。(V・O構造)

このような文に関してはこの説では主語なし文とする。しかし構造を重視する説から見れば、このような文の述語の前の「院子中间」、「昨晚」、「第二天早上」は主語として見るのである。また文の意味を重視説から見れば、述語の後の「两个客人」、「暴雨」は目的語として見るのではなく、主語として見るのである。

2 平家物語の主語

平家物語では主語を示すには主語の後に「が」、「の」、「は」、「も」、「こそ」、「ばかり」、など沢山の助詞が使われている。また一方では、主語を示すこれらの助詞が省略されて、主語の後には何の助詞も使われていない場合もかなりある。主語の後に何の助詞も付いていないこの日本語の現象については岩波講座日本語¹⁰⁾では「日本語は本来主格を表わす助詞のない言語である」「文脈・語順によって主格・目的語が理解される」「助詞がなくても大きな支障を生じることはない」と説明している。しかし、もし助詞が付いていない平家物語の主語をそのまま中国語に置き換えたり、或いはそのまま中国語として見た場合には日本語と中国語の構造が大きく違ってくる場合がある。つまり平家物語では主語であるものは中国語として見た場合には主語ではなくなるのである。この一節ではこのような平家物語の主語と中国語を比較して考察してみたいと思う。

(1) 日本語も中国語も主・述構造であるもの

先ず次の用例を見てみよう。

姉の妓王をば入道相国最愛せられけり。(巻一妓王 p.34)

顕頼の民部卿逝去したりしをば、故院殊に御歎あつて、八幡の行幸延引し、御遊なかりき。(巻三法印問答 p.187)

棒線部の「入道相国最愛」、「民部卿逝去」はそのまま中国語に置き換える或いはそのまま中国語として見た場合は日本語も中国語も主・述構造である。

日本語：入道相国 (が) 最愛。民部卿 (が) 逝去。

中国語：入道相国 最愛。民部卿 逝去

(2) 日本語では主・補構造であるものは中国語では連体修飾語と被修飾語の構造となる。

軍兵内裏に参じて四方の陣頭を警固す (巻一清水寺炎上 p.31)

神輿は一条を西へいらせ給ふに、御神宝天に輝いて日月地に落給ふかとおどろかる。(巻一御神輿振 p.66)

棒線部の「軍兵内裏」、「御神宝天」は日本語では主・補構造であるが、中国語として見た場合は連体修飾語と被修飾語の構造となる。即ち日本語では

軍兵 (が) 内裏に 御神宝 (が) 天に

という構造であるが、中国語では

という構造であるが、中国語では

漢王胡国 (漢王の胡国), 妓王、入道殿
同位語構造 并列構造

という構造になる。

(6) 日本語も中国語も同位語構造となるもの。

其中に大將軍李少卿、胡国の為に擒にせらる。(卷二蘇武 p.138)

「余に思へば夢やらん、又、天魔波旬の我が心を誑さむとていふやらん、……」(卷三俊寛足摺 p.147)

棒線部の「大將軍李少卿」、「天魔波旬」は日本語も中国語も同じものを指す同位語構造となる。

(7) 日本語では主語・連用修飾語構造であるものは中国語では主・述構造となる。

主上斜ならず御感あつて、頼豪阿闍梨をめして、「さて汝が所望はいかに」と仰せれば、(卷三頼豪 p.160)

燕丹大に恐れ慄き、荆軻と云兵をかたらつて大臣になす。(卷五咸陽宮 p.288)

棒線部の「主上斜」、「燕丹大」は日本語では

主上(が)斜ならず, 燕丹(が)大に
主語 連用修 主語 連用修

という構造であるが、中国語では

主上斜(主上が傾ける)、燕丹大(燕丹が大きい)
主語 述語 主語 述語

という構造になる。

(8) 日本語では主語・連体修飾語構造であるものは中国語では主・述構造、主語・連用修飾語構造、連体修飾語・被修飾語、并列構造となる。

人危特の思をなして是を見る。(卷一願立 p.63)

「汝此后の御腹に皇子御誕生祈り申せ。……」(卷三頼豪 p.160)

「我始皇の為に父伯叔兄弟をほろぼされて、夜昼是をおもふに骨髓に徹つて忍がたし。……」(卷五咸陽宮 p.289)

静憲法印、入道相国の亭へ向ふ。(卷三法印問答 p.186)

棒線部の「人危特」、「汝此后」、「我始皇」、「静憲法印」、「入道相国」は日本語では

人(が)危特の、汝(が)此后の、我(が)始皇の、静憲法印(が)入道相国の
主語 連体修飾語 主語 連体修飾語 主語 連体修飾語 主語 連体修飾語

主語・連体修飾語という構造となっているが、中国語では

人危特 (人が危特である。) 主・述構造
主語 述語

汝此后 (汝がこれから) 主・連用修構造
主語 連用修

我 始皇 (私の始皇) 連体修飾語・被修飾語構造

静憲法印, 入道相国 (静憲法印入道相国) 并列構造

并列構造

というぐあいになる

(9) 日本語も中国語も主語・受け身述語の構造となる。平家物語では章段のタイトルとして、主語・受け身述語の構造をよく使っている。このような場合は中国語もまったく同じ構造となる。例えば、

「西光被斬，新大納言被流，文覚被流」

中国語も同じ構造である。

3 助詞の使い分けと中国語訳

平家物語では主語を示すには格助詞の「が」、「の」、係助詞の「は」「も」「こそ」「ぞ」「なむ」「や」「か」、副助詞の「だに」「さえ」「すら」「のみ」「ばかり」などが使われている。これらの助詞で表わしている主語を中国語に訳す時に、それぞれの助詞が表わしている意味の違いは中国語には適当な言葉があり、それに当てはめる場合もあれば、それという言葉で当てはめることができない場合もある。次は幾つかの場合について考察していきたいと思う。

(1) 適当な言葉で当てはめることができる場合。

(a) 係助詞「も」「こそ」で表わしている主語は中国語に訳す時には基本的にそれに当てはめる言葉があり、それぞれの意味を適当な訳語で表現できる。

「近年，朝廷靖ならずして，人の心も調ほらず，世間もいまだ落居せぬ様に成行く事を惣別に付て歎思召（せ）ども，……」（卷三法印問答 p.186）

中国訳では

「近年朝廷不得安宇，人心也不調和，天下也不安泰，法皇对如此变化之势态总感到悲叹。」

棒線で示しているように「も」で示される主語は中国語訳では大体「也」で表現できる。

入道は只大方を執り行ふばかりでこそ候へ。内府こそ手を下し，身を碎いて，度々の逆鱗をばやすめまゐらせ候しか。（卷三 法印問答 p.186）

中国語訳では

吾只不过是大体命令一下，唯有内大臣才亲自出征，粉身碎骨，多次平息战乱，让法皇息怒欢喜。

棒線で示しているように「そこ」で表わされる主語は中国語では「唯」「唯有」に訳することができる。

(b) 副助詞「だに」「さえ」「のみ」「ばかり」で表わしている主語は中国語にはそれに相当する言葉があり、基本的にそれぞれの意味を表現できると思う。

一天の君万乗のあるじだに遷し得給はぬ都を、入道相国、人臣の身として遷されけるぞあさましき。(巻五都選 p.275)

中国語訳では

連一天之君万乗之主的天皇都难以迁幼の京城、被身为人臣の入道相国迁出去了、突在可畏。

棒線で示しているように「だに」で表わされている主語は中国語訳では大体「連……都」で訳することができる。

現世後生愚おほしめされつる新院さへ先立せ給ぬれば、とにかくにかこつたなき御涙のみぞすすみける。(巻六小督殿 p.344)

中国語訳では

连現世与来世頼以依靠の高倉上皇也先他而逝、法皇悲伤无言、唯有眼泪如泉涌。

棒線で示しているように「さえ」で表わしている主語は中国語訳では基本的に「連……也」で表現することができる。

いまは平家の一類のみ繁昌して、かしらをさしだす者なし。(巻一二代后 p.25)

中国語訳では

如今只有平氏家族得以繁荣、无人超过他们。

棒線で示しているように「のみ」で表わしている主語は中国語訳では大体「只有」に訳することができる。

今は幼き小き人々ばかり残りゐて、又事問ふ人もなくておはしける。(巻二少将乞請 p.97)

中国語訳では

如今留下来的全是年幼的孩子、也无人与自己說話。

棒線部で示しているように「ばかり」で表わしている主語は中国語訳では大体「全」「尽」などの言葉で表現できる。

(2) 中国語では区別ができないもの

(a) 「が」と「の」の使い分けと中国語訳

平家物語では従属文主語の助詞としては「の」を使ったり、「が」を使ったりする。また独立文や主文の主語も「が」を使ったりする。また「が」と「の」の使い方には

待遇差の問題もある。このように平家物語の主語は微妙に「が」と「の」の使いわけをしている。ところが、「が」と「の」で表わしている平家物語の主語が中国語に訳される時にその使いわけが中国語では区別できなくなる。つまり中国語では従属文の主語にしる、連体修飾語の主語にしる、主文や独立文の主語にしる、言葉の上でそれらを区別することができないのである。また待遇差が発生した場合についても中国語訳でははっきりとその待遇差を訳すことができない場合もある。先ず次の用例を見てみよう。

又源中納言雅頼卿の許に召つかはれける青侍が見たりける夢こそおそろしけれ。
(巻五福原怪物 p.282)

中国語訳では

源中納言雅頼卿門下の武士青侍做的梦，才令人可怕矣。

「君の西八条へ御出候し時，追捕の官人まるって資財雜具を追捕し，御内の人共搦め取り，御謀反の次第を尋とひ，皆失ひはて候き。……」(巻三有王 p.171)

中国語訳では

大人去西八条后，追捕的官人很快就到了，没收了家财道具，捕走了手下的人牙，拷問他們煤反的洋情，最后把他們全部杀了。

上述の二例棒線で示している主語「青侍が」，「君の」はそれぞれ「が」と「の」を使っているが，それを中国語に訳する時にはその使いわけを区別することができないのである。「が」を使っても，「の」を使っても中国語訳としては一緒である。

もう二例をみてみよう。

入道相国，「小督がうせたりと云は跡かたもなき空事にて有けり」とて，(巻六小督殿 p.344)

中国語訳では

入道相国道：“传说小督失踪了，原来是无端的流言。”

燕の指図并に樊於期が首見参に入(るる)処に，指図の入ったる櫃の底に氷の様な剣のあるけるを，始皇帝御覧じて，やがて逃げんとし給ふ。(巻五咸陽宮 p.291)

中国語訳では

在查看燕国地图和樊於期的首级时，放地图的匣子底部露出一把发着冰光的锐剑，秦始皇帝看到后，即刻就要走开。

棒線で示している「小督が」，「指図の」の主語は中国語訳としては「が」を使っても，「の」を使っても区別ができないのである。

(b)「は」と「が」の使い分けと中国語訳

平家物語の主語では「は」を使ったり、「が」を使ったりして、さまざまな使い分けをしているが、この「は」と「が」で表わしている主語は中国語の訳としては区別ができないのである。「は」で示した主語であろう、「が」で示した主語であろう、中国語に置き換える時にはその使い分けは表現できないのである。

先ず次の用例を見てみよう。

神武天皇より景行天皇まで十二代は、大和国郡々に都をたてて、他国へはつひにうつされず。(巻五遷都 p.237)

中国語訳では

自神武天皇至景行天皇凡十二代，均在大和国的各郡建都，未迁都到他国。

又防き奉らば年来医王山王に首をかたぶけたる身が，今日より後，長く弓矢の道にわかれ候なんず。(巻一御輿振 p.67)

中国語訳では

倘若将神輿拒之内外，平日在医王山王前总是俯首祈祷的众徒，将从今日起与弓矢之道告别。

上述の二例棒線で示している主語「十二代は」，「かたぶけたる身が」はそれぞれ「は」と「が」で表わしているが，それを中国語に訳する時には，「は」と「が」で表わしている主語ははっきりと区別ができないのである。

もう一例を見てみよう。

此馬は相模国之住人大庭三郎景親が東八箇国一の馬として入道大相国へまゐらせたりけるが，(巻五福原物怪 p.282)

中国語訳では

此马乃是相模国之住人大庭三郎景亲送给入道相国的，据说是東八国数第一的良马。

棒線で示しているように，この文の中に「は」で表わしている主語も「が」で表わしている主語もあるのである。それぞれが関わっているものが異なるが，主語そのものは「は」で表わしても，「が」で表わしても中国語訳では区別ができないのである。また，主語を示す助詞があってもなくても中国語訳としては変わらないのである。次は助詞が省略された用例である。見てみよう。

兵衛佐殿一定とはおぼえねども，父の頭ときく懐かしさに，先ず涙をぞ流されける。(巻五院宣 p.304)

中国語訳では

兵卫佐殿虽然觉得文覚的话不一定是真的，但一听到是父亲的首级，便倍感怀念和悲哀，泪水一涌而出。

棒線で示している主語「兵衛佐殿」には主格を表わす助詞が付いていないのであるが、中国語訳としては助詞があってもなくても、また「は」を付けても「が」を付けても、訳文の主語としては何の変わりもないのである。

(c) 助詞が重なる場合と中国語訳

平家物語では助詞が重なって主語を示す場合がよくある。助詞が重なって示した主語を中国語に訳する時には、重なっている助詞が表わしている意味をそれぞれ適当な訳語で対応することが難しく、普通は重なっている助詞のどちらかをしか訳することができないのである。次の用例をみよう。

入道相国ばかりこそ、いきどほりはれて喜ばれけれ、中宮・一院・上皇、斜ならず御歎きあつて、(巻五南都炎上 p.324)

中国語訳では

只有入道相国一人消了怒氣，化恨为欢，而中宮、一院、上皇皆悲叹不已。

遠く天竺に仏蹟を訪へば、昔仏の法を説給ひし竹林精舎・給孤独園も、此比は狐狼野干の栖となつて、礎のみや残(る)らん。(巻二山門滅亡 p.129)

中国語訳では

远訪天竺之佛迹，昔日释迦说法之竹林精舍、祇园精舍如今变成了狐狼栖息之地，唯有基石残存了。

棒線で示しているように主語「入道相国」の後には「ばかりこそ」，「礎」の後には「のみや」が重なっている。ところが、この重なっている助詞が表わしている意味は中国語では一一訳することができないのである。

Ⅲ 主語の省略

日本語の主語がよく省略されていることはよく指摘されている。平家物語の主語もよく省略されている。本章では主語が省略された平家物語の文を幾つかのパタンに分け、それを中国語に訳する時に訳文では主語が必要かどうかについて考察すると同時に、中国の語り物「平話」の主語の省略と比較し、さらに平家物語英訳の主語の問題にも触れてみたいと思う。

1 文と文の間の主語の省略

(1) 同一人物の連続した動作或いは状態を描写する時に動作主の主語は最初の一文に現れ、その後の文には省略される。平家物語の主語のこのようなパタンの省略を中国語に訳する時には訳文では同じようなパタンを取ることができる。先ず次の用例を

見てみよう。

清盛嫡男たるによって其後を継ぐ。保元元年七月に宇治の左府代をみだり給しとき、安芸守として御方にて勲功有しかば、播磨守にうつて、同き三年太宰大貳になる。次に平治元年十二月、信頼卿が謀反の時も御方にて賊徒をうちたひらげ、「勲功一にあらず。恩賞はおもかるべし」とて、次の年正三位に叙せられ、うちつづき宰相、衛府督、檢非違使別当、中納言、大納言に経あがって、剰は丞相の位にいたる。左右を経ずして、内大臣より太政大臣従一位にあがる。大将にはあらねども、兵仗を給って隨身をめしぐす。牛車轝車の宣旨を蒙って、乗りながら宮中を出入す。偏に執政の臣のごとし。(巻一鱸 p.19)

棒線で示しているように主語「清盛」は最初の一文に現れただけで、その後の文にはすべて省略されている。このようなパタンの省略は中国語訳では同じように処理することができる。中国語訳を見てみよう。

平清盛嫡男，继承了父业。保元元年七月，在左大臣藤原赖长叛乱之时，以安芸国太守之职效忠朝廷，因累立了战功，迁升为播磨国太守，保元三年又升为太宰大貳。平治元年十二月信頼卿谋反时，又为朝廷扫平了叛贼，受到了“战功非凡，应予恩赏”之褒，并于次年正月晋升为正三位。接着又不断升为宰相，工府督，檢非違使別当，中納言，大納言，直至丞相之位。又绕过左右大臣，从内大臣直升至从一位的太政大臣。不是大将，却容许带兵仗，带仆从，又蒙承了圣旨准乘牛车出入宫中，全然宛如摄政大臣。

棒線で示しているように訳文も主語が最初の一文だけに現れている。

さて中国の語り物「平話」の場合はどうなっているだろう。その用例を見てみよう。

昭王即位于国破之后，内施其仁，外施其德；君不矜尊，臣不施名；养老尊贤；教其术，畜其能；吊死向孤，济寒賑贫；与百姓同甘共苦，轻徭薄赋；慎狱讼，实府库，劝农桑；民富国强，众安如堵。(七国春秋平話集卷上 p.495)

棒線で示しているように主語の「昭王」は最初の一文だけに現れて、その後の文にはすべて省略されている。

次は英訳の場合を見てみよう。

¹¹¹ His heir, Kiyomori, succeeded him.

Kiyomori was Governor of Aki until he was transferred to the governorship of Harima, a promotion granted in recognition of his services at the time of the disturbance instigated by the Uji Minister of the Left, during the Seventh Month of the first year

of Hōgen. In the third year of Hōgen, he became Dazaifu Assistant Governor-General. Then, when Load Nobuyori led a revolt in the Twelfth month of the first year of Heiji, it was Kiyomori who subdued the rebels; and the authorities, concluding that his distinguished services deserved a commensurate reward, appointed him to Senior Third Rank in the First Month of the following year. He progressed through the offices of Consultant, Guards Commander, Police Superintendent, Middle Counselor, and Major Counselor, one after another, until he reached the eminence of Minister of State. He rose from Palace Minister to Chancellor of Junior First Rank without having served as Minister of the Left or Right. Although he was not a Major Captain, an imperial edict authorized him to employ Escorts; and he received imperial permission to ride in and out of the palace in ox-drawn and hand-drawn carriages, just like a Regent.

(『The Tale of the Heike』 p.27)

棒線で示しているように英訳の場合は主語「清盛」は十ヶ所も出ている。

このように同一動作主が連続して動作を続ける場合に後ろの文の主語がよく省略される現象は平家も中国語訳も又中国の語り物「平話」も同じである。しかし英語の場合はあまり省略しない。

このようなパダンの主語の省略は平家物語ではさらに段落が変わっても省略が続く場合がある。このような場合には中国語訳としてはやはり適当に主語を入れた方がよいと思う。次の用例を見てみよう。

有王空しき姿にとりつき、天に仰ぎ地に俯し、心の行き程泣き飽きて、「やがて後世の御伴仕べう候へども、此世には姫御前ばかりこそわたらせ給ひ候へ。後世とぶらひまゐらすべき人も候はず。しばしながらへて、後世を弔まゐらせん」とて、ふしどを改めず、庵をきりかけ、松の枯枝、蘆の枯葉を取掩ひ、藻塩の煙となし奉り、茶毘事終へにければ、白骨を拾ひ、頸にかけ、又商人船の便りに九国の地へぞ付にける。

其後都へ上(り)、僧都の御女の忍ておはしける所へ参って、ありし様初めより細々と語(り)申。(卷三有王 p.174)

棒線で示している主語「有王」は段落が変わっても省略されている。次に中国語訳を見てみよう。

有王抱住尸体，仰天俯地地痛哭起来。哭夠后說道：“本应陪您一同归天，然现世只有貴小姐活着，无人替您祈祷来世之菩提，故暂且活在人世向，为您祈祷冥福。” 說毕，将草庵拆毀，在上面蓋上枯松枝，枯芦葦，象焚燒海盐一般，簡單地进行了火葬。火葬

完毕后，棧上遺骨掛在頸上，又乘上商船回到了九州地方。

回到京城后，有王来到了僧都女儿隱居的地方，将島上的一切从头至尾细説了一遍。

棒線で示しているように中国語訳としては段落が変わったらやはり主語を入れた方がよい。次に英訳を見てみよう。

Ario clung to the corpse, looked up the skies, flung himself down onto the earth, and wept and lamented, all to no avail. After he had cried himself out, he said, "It would be fitting for me to join you immediately in the next world. But even though Her Young Ladyship still lives, there is nobody left in this world who can offer proper prayers for your enlightenment. I am going to stay alive awhile to intercede for you." Without touching the bed, he tore down the hut on top of it, added a covering of dry pine branches and withered needs, and transformed his master's body into salt-fire smoke. When the cremation was finished, he picked up the white bones, put them in a bag, hung it around his neck, and returned to the Nine Provinces on a trading ship. Then he went to the Bishop's daughter and gave her a full account of all that had happened. (p.114)

棒線で示しているように主語は七ヶ所にも現れている。

(2) 動作、状態の主語が言葉の使い方や前後の文脈などから容易に判明できる場合にはその主語がよく省略される。中国語訳も平家と同じように省略することができる。また中国の語り物「平話」も同じような省略現象がある。先ず用例を見てみよう。

古，漢王胡国を攻められけるに，始めは李少卿を大將軍にて三十万騎むけられる。漢の闘ひ弱くして，胡国の戦勝にけり。兵多く打亡はさる。其中に大將軍李少卿，胡王の爲に擒にせらる。

次に〔 〕蘇武を大將軍にて五十万騎をむけらる。猶漢の闘ひ弱くして，えびすの兵勝にけり。(卷二蘇武 p.138)

二節目の〔 〕の所の主語「漢王」は前後の文脈などから容易に判断できるから省略されている。中国語訳も同じように省略することができる。

往昔，汉王攻打胡国，始令李少卿为大将军，交兵三十万。可是，汉军攻打无力，败北胡国，汉兵战死者不计其数，大将军李少卿也被胡王生擒。

接着，〔 〕又令苏武为大将军，交兵五十万。然汉军的攻打又软弱，胡国又得胜。

〔 〕の中に入れる主語「漢王」は平家の原文と同じように前後の文脈などから容易に判断できるから省略することができる。次に「平話」の例を見て見よう。

学究道：“当時待覓个死来，准知不死。”

〔 〕 移时黑暗，却见正北有明处，遂往明处行，约十余步，见白玉拄杖一条，用手去拿，却是一门缝，用肩推开洞门，如同白日相似。见一石席，坐，气歇多时，身困，臥于石席上睡着。忽然舒身，脚登软忽一块。（三国志平話卷上 p.753）

〔 〕 の中に入れる主語は前後の文脈などから「学究」であることが容易に分かるから省略されている。

しかし平家物語の主語のこのような省略は中国語訳としてはすべて同じように省略することができるとは限らない。場合によっては中国語訳はやはり主語を入れた方がよい。次の用例を見てみよう。

其よりしてぞ、文をば雁書とも云ひ、雁札とも又名付けける。

「あなむさん、蘇武が誓の跡なりけり、未だ胡国に有にこそ」とて、〔 〕 李広と云將軍に仰て百万騎をむけらる。（卷二蘇武 p.139）

〔 〕 で示している所に主語「漢王」が省略されてる。しかし中国語訳としては省略された主語「漢王」を入れた方がよい。中国語訳を見てみよう。

此那以后，书信便曰夕雁书，或曰夕雁札。

漢王覽信后道：“嗟，实在惨矣！此乃苏武之豪放笔迹。他仍活在胡国。” 说罢，令李广夕将军，交兵一百万。

棒線で示しているようにやはり主語「漢王」を入れた方が分かりやすいと思う。

さて、英訳を見てみよう。

Long ago, when the Han ruler attacked the land of the Xiongnu people, he began by sending out three hundred thousand mounted men under the command of Li Xiaoqing. But the Han force was weak and the Xiongnu were strong; the Chinese were annihilated. Furthermore, the general, Xiaoqing, was captured by the Xiongnu ruler. The Chinese next dispatched five hundred thousand men under the command of Su Wu, but again the Han force was weak, the barbarians were strong, and the Chinese were annihilated. (p.94)

It is because of that incident that letters are sometimes called “goose writings” or “goose notes.”

“How pitiful!” the Emperor said. “This is Su Wu’s famous calligraphy; there can be no doubt that he is still alive in the barbarian land.” He issued a command to another general, Li Guang, and dispatched a force of a million cavalry. (p.94～95)

棒線で示しているように、英訳も省略されていない。

(3) 同一人物の動作の描写が続く時にその途中に動作主の違う別の文が入った場合にはその動作主の違う別の文の主語は普通省略されない。中国語訳も同じようにその主語を省略しない。また中国の「平話」も同じような現象がある。先ず用例を見てみよう。

其夜は康頼入道と二人、墓のめぐりを行道し、明ぬれば新しう壇築き、くぎぬきせさせ、前仮屋作り、七日七夜が間念仏申、経書で、結願には大なる卒都婆をたて、「過去聖霊、出離生死、證大菩薩」と書て、年号月日の下には「孝子成経」と書かれたれば、しづ山がつの心無きも「子に過たる宝なし」とて、涙を流し袖をぬらさぬはなかりけり。年去り年来れども、忘れ難きは撫育の昔の思、夢の如く幻の如し。尽き難きは恋慕の今の涙なり。三世十方の仏陀の聖衆も憐み給ひ、亡魂尊霊もいかにうれしとおほしけん。「今暫念仏の功をも積べう候へども、都に待(つ)人どもも心元無う候らん。又こそ参り候はめ」とて、亡者に暇申つつ、泣く泣くそこをたたれける。(卷三少将都帰 p.163~164)

此の一節は丹波の少将についての描写であるが、棒線で示しているように途中に動作主の違う別の文が入っている。それらの文の主語「しづ山がつの心無きも」、「三世十方の仏陀の聖衆も」、「亡魂尊霊も」は省略されていない。中国語訳も同じで、省略することができない。見てみよう。

其夜、少将与康頼入道一起通宵达旦绕着坟墓诵经念佛。天明后又新筑了祭坛，围起了栅栏，并在祭坛前搭起了临时小屋。连续七天七夜念佛写经。在诵经结束之日竖起了一块大木塔牌，上书“故去圣灵，脱离生死，证大菩提”。又在年月日之下书上“孝子成经”。见到此景，连不识世故的薄情山人也道：“没有任何宝物能胜过子孙。”说罢，衣袖无不被眼泪浸透。冬去夏来，星霜几度，永远忘不了的是昔日抚育之恩，如梦如幻。流不尽的是今日的思念之泪。此景此情，连三世十方的佛陀圣众也感到怜悯，亡父尊灵也感到欣慰。少将又道：“本应在此再多多念佛积善，然京城里的人们等着焦，只好以后再来。”说毕，向亡灵告了别，哭泣着离开了墓地。

棒線で示しているように中国語訳としてはこれらの主語は省略することができない。次に中国の「平話」の例を見てみよう。

张飞一人一騎便出，至杏林庄上。有把門軍卒遮当不住，直至中军帳下，立互横枪。(三国志平話卷上 p.760)

棒線で示している主語「把門軍卒」は前後の文の主題と違うものだから省略することができない。さて、英訳ではどうなるだろう。見てみよう。

Naritsune paced around the grave with Yasuyori all night long, chanting Buddha-invocations; and on the following day he made a new mound encircled by a stake fence. Then he spent seven days and nights in a temporary shelter opposite the grave, chanting Buddha-invocations and copying sutras. On the last day, he put up a large stupa with an inscription: "May the holy spirit of the departed leave the realm of reincarnation and attain full enlightenment." Below the date he wrote, "His loving son, Naritsune." Even humble, untutored woodcutters wept into their sleeves at the sight, thinking, "There is no greater treasure than a child." For Naritsune himself, the years might come and the years might go, but never would he forget the loving kindness with which he had been reared. It all seemed a dream, a phantasm. Nothing remained but the endless flow of his yearning tears. The Buddhas and bodhisattvas of the Three Worlds and the Ten Directions must have pitied him. And how great must have been the happiness of Narichika's departed spirit!

"It would be proper for me to amass merit by reciting Buddha-invocations awhile longer, but the people waiting in the capital are probably anxious. I will be certain to come again." With those words of farewell to the dead, Naritsune went away in tears. The parting must have been equally painful to Narichika under the grass. (p.107~108)

棒線で示しているように英訳でも省略されていない。

(4) 描写する人物がある場面に於いて始めて出現するときにはその主語(人物)は普通省略されない。中国語訳も同じである。中国の「平話」も同じ現象がある。先ず次の用例を見てみよう

其比, 一院第二の皇子以仁の王と申しは, 御母加賀大納言季成卿の御娘なり。三条高倉にましましければ, 高倉の宮とぞ申しける。去じ永萬元年十二月十五日, 御年十五にて, 忍つつ, 近衛河原大宮の御所にてひそかに御元服ありけり。(卷四源氏揃 p.215)

棒線部の主語「一院第二の皇子以仁の王と申しは」はこの場面に於いては始めて出現するので, 省略できない。中国語訳も同様である。見てみよう。

活説后白河法皇の第二皇子以仁亲王, 其母亲父加賀大納言季成卿之女, 因他住在三条的高倉, 故被称为高倉宮。永萬元年十二月十五日, 他年方十五, 悄悄地在近卫河原大宮之御所举行了元服礼。

棒線で示しているように主語が省略されていない。次に「平話」の用例を見てみよ

う。

活況楚王大惊，不合岁长，兴兵伐秦不下，折兵亏将，恐敌不住，预先祸及本邦，暗思忧虑。(秦并六国平話卷上 p.581)

棒線で示している主語「楚王」はこの場面に於いては始めて出現するので、省略することができない。

次に英語の訳を見てみよう。

Retired Emperor Go-Shirakawa's second son, Prince Mochihito, the off-spring of a daughter of the Kaga Major Counselor Suenari, was known as Prince Takakura because he lived at Sanjō Takakura. His coming-of-age ceremony had been an unostentatious event held at the Senior Consort's Konoe Kawara residence when he was fifteen, on the Sixteenth of the Twelfth Month in the first year of Eiman. (p.135)

棒線で示しているように英訳も省略されていない。

もう一例見てみよう。

さる程に、入道相国、漸思なほって、法皇をば鳥羽の北殿を出しまゐらせて都へ御幸なしたてまつられたりしかども、高倉宮の御謀叛によって大に憤り、又福原へ御幸なし奉り、四面に端板して口一あけたる内に三間の板屋を造って押し籠め奉る。(巻五都遷 p.272)

棒線部の主語「入道相国」は省略されていない。中国語訳も同様に、省略することができない。

其時、入道相国態度有所緩和、他社法皇从鳥羽北殿迁到了京都。然而、由于发生了高仓宫谋反之事、他又大岁恼怒、把法皇迁到了福原、造了三间小屋、四周用板子围着、只留下一个出口、把法皇关押在里面。

棒線部の主語「入道相国」は省略されていない。次に英訳の場合を見てみよう。

After Kiyomori had at last relented enough to bring Retired Emperor Go-shirakawa from the Toba Mansion to the capital, Prince Mochihito's revolt had rekindled his fury against the former sovereign. He forced him to go to Fukuhara, and there he shut him inside a three-bay, shingle-roofed structure surrounded by a wooden fence with only one entrance, which was guarded by a warrior called Harada no Taifu Tanenao. (p.165~166)

棒線で示しているように英訳も省略されていない。

(5) 主語が省略されたら、動作主が分からなくなったり、或いは幾つかの動作主が考えられたりする場合にはその主語は省略しない。中国語訳も中国の「平話」も同じで

ある。先ず次の用例を見てみよう。

西光法師、この由をきいて我身の上と思けん、鞭を打って院の御所法住寺殿へ馳まゐる。平家の兵共道にて行あひ、「西八条殿よりめさるるぞ。きッとまゐれ」といひければ、「是は奏すべき事あつて院の御所へまゐる。やがてこそ帰まゐらめ」といひければ、(巻二西光被斬 p.88)

棒線で示している主語「平家の兵共」がもし省略されたら、その後の述語「道にて行あひ」は誰が行った動作か分からなくなる。中国語訳も原文と同じように省略できない。

西光法師听到此事，觉得大难即将临头，便快马加鞭向法皇居住的法住寺殿奔去。平家的武士在路上与之相遇，对他说道：“西八条大人有请，请走一趟。西光答道：“吾有事要上奏，要去法皇之御所。”

棒線で示している訳文の主語は省略できない。次に中国の「平話」を見てみよう。

活悦严仲子为使命，齎国书投冀州，入城见平原君。次早，平原君来朝赵王曰：“现有韩国使命在外，未敢自擅，伏候敕旨。”(秦并六国平话卷上 p.591)

棒線で示している主語「平原君」は省略することができない。省略したら、後の述語の主語は誰なのか分からなくなる。

さて次に英訳の場合を見てみよう。

Saikō got wind of the affair and galloped toward the Retired Emperor's Hōjūji Mansion with raised whip - feeling, perhaps, that he was in grave danger. A group of Heike samurai came racing to intercept him on the way. "You are summoned to Nishihachijō. Come along now," they said .

"I am on my way to the Hōjūji Mansion with an urgent report for the Retired Emperor. I will go to Nishihachijō as soon as I am free," Saikō said. (p.64)

棒線で示しているように英訳も省略されていない。

(6) 対比などの意味を表す時には対比双方の主語は省略することはできない。先ず次の用例を見てみよう。

いかなれば小松殿はかやうにいうなるためしもおはせしぞかし，此宗盛卿はさこそなからめ，あまっさへ人のをしむ馬こひとつて，天下の大事に及ぬるこそうたてけれ。(巻四競 p.231)

棒線で示している主語「小松殿は」、「此宗盛卿は」は対比の意味を表わしているので省略されていない。次に中国語訳を見てみよう。

不知何故，小松大臣如此豪爽义举，而弟宗盛卿却截然不同。即使不如兄长，也不应

強取他人十分珍愛的良马，以致酿成天下之大祸，实在悲矣。

棒線で示しているように対比双方の主語が省略されていない。次に英訳の場合を見てみよう。

How could Munemori have been so different from his admirable brother? That he should have failed to achieve quite the same high standard was not surprising, but it was disgraceful of him to plunge the country into turmoil by coveting and appropriating another man's favorite horse. (p.144)

棒線で示しているように英訳も対比の双方が省略されていない。

2 会話文の主語の省略

(1) 平家物語では会話を引用する時にその会話は誰が言ったものなのか、前後の意味や文脈などからはっきりと分る場合にはその発話者が省略される場合がある。このようなパタンの会話文を中国語に訳する時にはやはり発話者を入れた方がよい。先ず次の用例を見てみよう。

敵は無案内なり，信連は案内者なり，あそこの面道におっかけてははたとときり，このつまりにお（っ）つめてはちやうどきる。「いかに宣旨の御使をばかうはするぞ」と〔 〕いひければ，〔 〕「宣旨とはなんぞ」とて，太刀ゆがめばをどりのき，おしなほしふみなほし，たち所によきものども十四五人ぞ切ふせたる。(巻四信連 p.225)

〔 〕で示している所に発話者の「平家の兵」と「信連」が省略されている。しかし前後の意味などから判断すれば，発話者が誰か容易に分かる。次に中国語訳を見てみよう。

敌人不熟悉地形，而信连熟悉。他把官兵追到这边长廊下，喀嚓一刀斩一个，追到那边角落里啁啾一声又砍一个。官兵道：“为何对宣旨御使如此无理！”信连道：“宣旨算什么！”太刀砍弯了，他跃到一旁用手扳直，用脚踏平，回过身来又一口气斩十四五人。

棒線で示しているように中国語訳では発話者の「官兵」「信連」は省略されていない。次に中国の「平話」の用例を見てみよう。

拈指到燕主阶前，下马，被内人拦住。飞曰：“念某特来见公主，有商榷的事。”把内人曰：“少待某报知主公。”把内人至厅前称：“有一人在衙前，欲与主公有权的事。”燕主曰：“交清来。”（三国志平話卷上 p.758）

棒線で示しているように主語「飛」，「把門人」，「燕主」は省略されていない。次に英訳の場合を見てみよう。

The full moon, which had been hidden behind clouds, came out to flood the scene with light. The attackers were in unfamiliar surroundings, but Nobutsura was at home in the mansion. He chased them along passageways and struck ringing blows; he trapped them in cul-de-sacs and drove his sword thudding into their flesh. When they asked why he resisted the bearers of an official order, he said, "What do you mean, official order?" When his sword bent, he jumped aside and pushed and stamped it back into shape. In no time, he cut down fourteen or fifteen doughty men. (p.141)

棒線で示しているように英訳も発話者の主語が省略されていない。

一方、平家物語では発話者が省略されずに、「……が（は）申しけるは」のように主語のすぐあとに述語を置く形を取る場合も多い。このような使い方は中国語とまったく一緒である。先ず次の用例をみてみよう。

頼政申しけるは「昔より朝家に武士を置かるる事は逆反のものをしりぞけ、違勅の者をほろぼさんがためなり。……」と申しながら、（巻四鶴 p.262）

棒線で示している「頼政申しけるは」の使い方は中国語と一緒である。では、中国語訳を見てみよう。

頼政道：“往昔朝廷設置武士乃是了退却叛逆者，殊天違旨之徒。……”

次に中国の「平話」を見てみよう。

陈平曰：“吾有何罪？”王陵怒曰：“当日封吕氏三王，尔言甚来？……”（前汉书平话续集卷下 p.731）

棒線で示しているような主・述構造の使い方は中国語ではもっとも普通である。

（2）平家物語では会話の文においては自分の動作・行為或いは相手の動作・行為を述べる時に主語として自分或いは相手がよく省略される。このような場合の主語の省略は中国語訳としては平家と同じように省略することは可能であるが、多くの場合はやはり入れた方がよいと思う。先ず次の用例を見てみよう。

少将のめのとに六条と云ふ女房あり。「〔 〕御乳にまゐりはじめて待ひて、君を乳の中より抱き挙げ奉り、おほしたてまゐらせてより以来、月日の重なるに随ひて、〔 〕我が身の年の行くをば歎かずして、君の長大うならせ給事のみよろこび待ひ、白地とは思へども、今年廿一年、離れ参られ待はず。……」とて泣く。（巻二少将乞請 p.99）

〔 〕に埋める主語「我」は省略されている。次に中国語訳を見てみよう。

少将有一位名曰六条の乳母，她哭泣着道：“妾进宫做您的乳母，把您从血中抱起，哺育着您，妾从未为自己陪着时间的流逝年龄增大而悲叹过，只盼望着您早日长大。时

向好象一瞬間就过去了，今年已二十一年了，妾一天也未离开过您。……」

棒線で示しているように訳文には三ヶ所主語「妾」を入れている。次に中国の「平話」の例を見てみよう。

严广骂曰：“胡将，你因何擅敢兵来犯关？”匈奴将黑答麻亦骂曰：“严广，汝不合将我牙乱吞追杀，更夺去百余匹牙，杀散手下人兵！吾今奉郎主救命，故来伐汝！”（秦并六国平話卷上 p.597）

棒線で示しているように主語「你」、「汝」、「吾」は省かれていない。次に英訳の場合を見てみよう。

His nurse, a lady-in-waiting named Rokujō, spoke in tears. "When I first came to give you the breast, I took you in my arms straight from the blood of the womb. I did not mind aging as the years accumulated; I was simply glad to watch you grow. It seems impossible that I have already been at your side for twenty-one years. It always worried me when you so much as came home late from the Retired Emperor's residence or the imperial palace. What will happen to you now?" (p.71)

棒線で示しているように主語「I」は五ヶ所も出ている。

(3) 平家物語の会話文では敬語がよく使われている。会話文の主語はよく敬語によって省略される。このような場合の主語の省略は中国語訳としては主語を入れる必要がある。先ず次の用例を見てみよう。

法皇の御返事には、「〔 〕さなおほしめされ候そ。〔 〕さて渡せ給へばこそ，〔 〕一の愚みにても候へ。〔 〕跡無くおほしめしならせ給ひなん後は，〔 〕何の愚か候べき。〔 〕只愚老がともかくもならん様を御覧じはてさせ給ふべうや候らん」と遊ばされたりければ，（卷三城南離宮 p.200）

〔 〕で示している所に入れる主語「主上」、「愚老」は敬語ではっきりしているので省略されている。それでは中国語訳をみてみよう。

法皇复书道：“请皇上不要如此乱想。您在皇位上正是吾唯一的寄托，倘若您辞了皇位，吾还有何值得寄托。您应照看愚老，直至吾归天为止。”

棒線で示しているように相手の動作・行為も自分の動作・行為も主語が省略されていない。次に中国の「平話」の用例を見てみよう。

李牧回，赵王問曰：“卿如何不杀匈奴之人，与那斯放牙关前牧养？”李牧启奏曰：“非臣不杀，匈奴之卒不曾侵于本界，致此不杀。”（秦并六国平話卷上 p.595）

棒線で示しているように主語としての相手も自分も省略されていない。

次に英訳の場合を見てみよう。

"You must do no such thing," Retired Emperor Go-Shirakawa answered. "My only hope is in having you there as Emperor. Where could I look for help if you were to become a monk and drop out of sight? Please wait until you have learned all there is to know about this old man's fate." The Emperor shed bitter tears, the reply pressed to his face. (p.128)

棒線で示しているように主語「you」は四回、も出ている。

3 前文の目的語・補語による主語の省略

(1) 平家物語では後文の主語は前文の目的語を受けて省略する時がある。このような場合の主語の省略は中国語訳としては平家と同じように省略できる場合もあれば、省略できない場合もある。先ず次の用例を見てみよう。

参内の始めより大きな鞘巻を用意して、束帯のしたにしどけなげにさし、火のほのぐらきかたにむかってやはら此の刀をぬき出し、髪にひきあてられたりけるが、〔 〕余所よりは氷などの様にぞ見えたりける。(巻一殿上閣打 p.15)

〔 〕に埋める主語「刀」は棒線部の目的語「此の刀を」を受けて省略されている。この場合は中国語訳も平家物語と同じように省略することができる。見てみよう。

忠盛在进宫时，准备了一把鞘卷腰刀，把它挂在束带服下，他面朝火光暗淡的方向，慢慢地拔出腰刀，贴在鬓发旁，〔 〕发出冰一样的光。

〔 〕に入れる主語「腰刀」は棒線部の目的語「腰刀を」を受けて省略されている。もう一例を見てみよう。

「仲綱」となのってまゐられたりけるに、此蛇をたふ。給って、弓場殿をへて、殿上の小庭に出つつ、御倉の小舎人をまねいて、「是給はれ」といはれければ、〔 〕大きに頭をふってにげさりぬ。力及ばで、わが郎等競の瀧口をめして是をたふ。〔 〕給ってすてて（ん）げり。(巻四競 p.230)

〔 〕に入れる主語は棒線部の「御倉の小舎人を」，「競の瀧口を」を受けて省略されている。次に中国語訳を見てみよう。

名曰仲綱の武士正好在旁，大臣把蛇给他。仲綱接过蛇，穿过弓场殿，向清凉殿小院走去，他唤来御仓小舍人，说道：“把它拿去。”〔小舍人〕摇摇头转身就跑了。无奈，便唤来自己的侍从竞泷口，把蛇给他，〔竞泷口〕拿过来把扔掉了。

〔 〕で示している主語は棒線で示している前文の目的語「御倉小舎人」，「競瀧口」を受けて省略しにくく、やはり主語を入れた方がよい。次に中国の「平話」を見

てみよう。

学究见一条巨蟒,〔 〕呆粗细做一块,约高三尺。(三国志平話卷上 p.573)

学究妻子又来送饭,不见学究,回来告与公公得知,〔 〕即时将引长子等去寻。(三国志平話卷上 p.573)

上の二例では〔 〕に入れる主語は棒線で示しているそれぞれの前文の目的語「巨蟒」,「公公」を受けて省略されている。

次に英訳の場合を見てみよう。

When Tadamori entered the palace, he brought along a large dagger, thrust loosely under his court robes. Turning toward a spot where the lamp-light was dim, he drew the weapon with deliberation and held it alongside his head, its blade gleaming like ice. (p.24)

棒線で示しているように英訳では主語は前文の目的語を受けて省略されていない。

(2) 平家物語では後文の主語は前文の補語を受けて省略する時がある。このような場合の主語の省略は中国語訳に於いては普通省略しないのである。次の用例を見てみよう。

藏人の権佐定長, 今度の御即位に違乱なく目出き様を厚紙十枚ばかりにしるいて, 入道相国の北の方八条の二位殿へまゐらせたりければ, 〔 〕咲を含んでぞよろこばれける。(卷四源氏摘 p.215)

〔 〕に入れる主語は棒線で示している前文の補語「北の方八条の二位殿へ」を受けて省略されている。次に中国語訳を見てみよう。

藏人权佐定长将此次登基继位进行得井井有然, 热热闹闹之状, 详细记在十张厚纸上, 呈上给入道相国的夫人八条二位殿。〔夫人〕满脸笑容, 十分喜悦。

〔 〕で示している主語「夫人」は棒線で示している前文の「夫人八条二位殿」を受けて省略されない方が分かりやすい。次に英訳を見てみよう。

Chamberlain-Provisional Assistant Commander of the Gate Guards Sadanaga made a detailed record on ten vellum sheets of the flawless manner in which the Accession Audience was performed. He presented it to Kiyomori's wife, the Hachijō Nun of Second Rank, who received it happily, her face wreathed in smiles. But the spirit of the times was uneasy in spite of such brilliant and joyous events. (p.135)

棒線で示しているように英訳では主語は省略せずに「who」と訳されている。

(3) 平家物語では主語は前文の目的語従属文の主語を受けて省略する場合がある。このような場合では中国語訳としてはやはり主語を入れた方がよいと思う。次の用例

を見てみよう。

大宮大納言隆季卿承って、左史生中原康定が姪にのって折節御前を漕とほりけるを
めして、おりにつかはす。〔 〕藤の花を松の枝に付ながらをつてまゐりたり。(巻四
叡島御幸 p.213)

〔 〕に入れる主語「中原康定」は棒線で示されている前文の従属文の主語を受けて
省略されている。次に中国語訳を見てみよう。

大宮大納言听到皇令后，看到左史生中原康定坐在小船上，正好从御前划过。大纳言
叫住他，让他去摘花。〔中原康定〕摘了藤花，连同松枝一起献给皇上。

〔 〕で示されているように主語「中原康定」は前文の目的語従属文の主語を受けて
省略しない方がよい。次に英訳の場合を見てみよう。

He summoned Major Counselor Takasue. "Have someone pick those flowers." A
Documents Clerk, Nakahara no Yasusada, who happened to be passing in a lighter,
was told to fetch the blossoms. He broke them off and brought them back, pine branch
and all. (p.134)

棒線で示しているように英訳では主語「He」が省略されていない。

Ⅳ おわりに

以上、中国語の主語の構造、平家物語の主語の構造、助詞の使い分けと中国語訳、
平家物語に於ける主語の省略と中国語訳・英語訳との比較、さらに中国語の語り物
「平話」との比較などについて考察してきた。これらの考察を通じて、およそ次のよ
うなことがまとめられよう。

①中国語の主語は判断基準の違いにより、同じ文でも主語として見たり、目的語と
して見たりする。語法上の意味を強調するとなえ方をする場合には主語は目的語の後
に、さらに述語の後に来る場合もあると見る。一方、文の構造そのものを強調すると
なえ方をする場合には述語の前にあるものは目的語であっても、場所を表わす言葉で
あっても、すべて主語として見る。

②平家物語の主語には主語を示す助詞が省略される場合が沢山ある。この助詞のな
い主語が後に出て来る言葉とくつつくことになる。これをそのまま中国語として見た
り、或いは中国語に訳したりするときには、日本語の構造と中国語の構造がまったく
違う場合がある。例えば、平家物語では主語・目的語構造であるものは中国語では修
飾語・被修飾語構造となる。

③平家物語では主語を示す助詞を使いわけにしている。それを中国語に訳す時には、その使いわけに対して、中国語訳では対応できる場合もあれば、対応できない場合もある。例えば、「は」「が」の使いわけなどは中国語では区別することができないのである。

④主語の省略については平家物語も中国語もよくある現象である。省略するパターンに於いて共通する点が多いが、全体から見れば、平家物語の方が中国語より省略の場合が多いと言えよう。また英訳の場合はほとんど省略しないのである。

注

- 1) 松下大三郎氏、三上章氏はこの説を主張する。松下氏の『標準日本語口語法』(昭和52 勉誠社)。三上氏の『現代日本語法序説』(1972年、くろしお出版)
- 2) 山田孝雄氏、時枝誠記氏などはこの説を主張する。山田氏の『日本文学概論』(1935 年宝文館)、時枝氏の『日本文法口語論』(昭和25年岩波書店)
- 3) 三上章氏の『現代日本語序説』(1972年くろしお出版)
- 4) 王力氏の『中国現代語法』(1954年中華書局)や呂淑湘氏の『語法學習』(1953年青年出版社)では(乙)の見方をしている。張志公氏の『漢語語法常識』(1953年青年出版社)や張靜氏の『新編現代漢語』(1980年上海教育出版社)や胡裕樹氏の『現代漢語』(1981年上海教育出版社)などでは(甲)の見方をしている。
- 5) 「平話」は宋元時代に成立した語り物。「話本」、「話本小説」とも言うが、歴史をかたるものは一般的に「平話」という。『宋元平話集』上・下(1990年上海古籍出版社)は本稿の比較のテキストとなる。
- 6) 王力氏は「語法上の主語はロジック上の主語と基本的に一致している」と述べている。('主語的定義及其在漢語中的應用'『語文學習』1956年一期) 呂淑湘氏の『中国文法要綱』(商務印書館1956年)では主語が述語のあとに来る用例をあげている。
- 7) 主・述・目を示す時には _____ 線は主語, _____ 線は述語, ~~~~~ 線は目的語を表わし、主語だけ表わすときには _____ 線で示す。
- 8) 胡裕樹氏の『現代漢語』(1981年上海教育出版社)では
東方 升起了紅太陽。
去年 發生了幾件大事。
這裏 有一些新書。
北京 我沒有去過。
_____ 棒線部は主語として見る。
- 9) 張靜『新編現代漢語』上(上海教育出版社1980年)参照。
- 10) 岩波講座『日本語7・文法Ⅱ』1977年
- 11) 『The Tale of the Heike』Translated, with an Introduction, by Helen Craig Mc Cullough. 1988 Stanford University press Stanford California.